

JICAの現場から ④

ジョージアと聞いてどんな国かイメージが湧く日本人はどれくらいいるだろう? 「大相撲初場所で優勝した栃ノ心の出身国」以外に、何が思い浮かぶだろうか?

◇

ジョージアは人口約380万人、面積は7万km²平方キロと日本の5分の1ほどだ。旧ソ連の共和国の一つで1991年に独立したが、08年にはロシアとの紛争により国土の一部を占領された。ロシアとの返還交渉は進んでおらず、日本の北方領土返還とも共通するせいか、国民は大変親日的である。

主要産業は、農業と観光業。地政学的にヨーロッパとアジアの結節点に位置し、カスピ海沿岸から産出される原油や天然ガスのパイプラインが敷設され、資源の通過に応じた通過料収入も主要な国家収入となっている。また、中国や中央アジア、アゼルバイジャンからトルコ、ヨーロッパに輸送される物資の通過国であるため、関税収入も大きい。

現在、日本企業の進出はわずか

で、日本人が駐在するのは豊田通商だけ。そのほか、JTIが現地職員で運営する地域子会社を持つのみだ。しかし治安は大変良く、政治も安定、政府はクリーンで民主化が進んでいる。外国企業の進出時には政府の積極的な支援があり、手続きや、税制度もシンプルで分かりやすい。また、米国の支援で英語教育を進めており、若者や政府関係者は流ちょうな英語が話せる。国際協力機構(JICA)は、こうした良好なビジネス環境を活かし、ジョージアの課題の解決に貢献する意欲のある日本企業の進出を支援している。例えば、首都トビリシ市内道路の切り立った斜面からの落石防災のため、東京製綱と三井物産による「道路斜面の落石防止ネットの設置プロジェクト」を16年まで実施。日本の落石防護ネット製品のレベルの高さが証明され、今後の普及が期待されている。

JICAはこのほか、ジョージアの、アジアとヨーロッパを結ぶ中継国としての更なる地位向上も

今後の日本企業進出に期待

ジョージア支所長

えじり ゆきひこ
江尻 幸彦 氏



アジアと欧州をつなぐ国際幹線道路の整備構想。ジョージアの一部区間を円借款で支援

支援している。ジョージアにとって最も重要な交通路である東西ハイウエーの整備だ。円借款事業として09年に着手、竹中土木とイタリア企業の共同企業体が工事を担い、17年6月に開通した。

この事業は、アジアと欧州各国を結ぶ、国際幹線道路の整備構想の一翼を担うものだ。完成でカスピ海から黒海までの移動時間が大幅に短縮され、物流の効率化や渋滞の緩和に貢献している。今後、ジョージアに進出する日本企業にも役立つはずだ。17年5月、コー

カサス地域初の拠点として支所を開設したのを機に、JICAとしても、一層日本企業との連携を密にしつつ、ジョージア発展に貢献していくつもりだ。(隔週掲載)

【略歴】国家公務員勤務後89年JICA入団、93年から96年フィリピン事務所、00年—01年東ティモール事務所、08年—13年ウズベキスタン事務所長として勤務、17年より現職。62歳。